みんなの広場 MINNANO HIROBA

市民からのお便り

（親子クイズ）全然分かりません。当てずっぽで解答しました。第545回解答が楽しみです。

（親子クイズ）このクイズを考える時は、親子で話しをします。良い機会（きっかけ）になってます。ありがとうございます!!

親子クイズ 546

Q 今年9月、陸上男子100m走で、9秒98の日本新記録が出ました。

①日本人で初めて「10秒」の壁を破るという快挙を成し遂げたのは誰でしょう。
②それまでの記録は10秒00でした。この記録を出したのは誰でしょう。

共に、フルネームを漢字で答えなさい。

■応募締切／11月10日㈮必着
■あ て 先／〒783－8501
南国市大埇甲2301
南国市企画課「親子クイズ係」
＊はがきで応募
■賞　　品／正解者の中から抽選で、5名に図書カード（1,000円）を贈呈

【第545回解答】
⑤土佐国分寺跡
⑦岡豊城跡
⑨比江廃寺跡

【第545回当選者】
片山　ワコ　（大埔乙）
岡本　美幸　（明　見）
松下　須賀子　（浜改田）
尾原　はるの　（上末松）
朝比奈　好恵　（高知市）

★応募総数／36通　★正 解 率／89％

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

こころ ふれあい つながって 80 人権学習シリーズ

児童虐待を防止するには

毎日のように児童虐待のニュースがテレビや新聞紙上で取り上げられています。死にいたるケースもあり、その都度心を痛めている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

虐待が起こる要因はさまざまですが、その一つに『虐待の輪廻』というものがあると雑誌で読んだことがあります。

それは「親から虐待を受けた子ども達は、生まれてきた自分の子どもにも同じような虐待を行う。」というものです。さらに記事には、「自分の親から受けた行為は、良識的でないことであっても当然のように受け入れ、正しいものであるかのように信じてしまう。」とも、書かれていました。

虐待を受けたすべての人がそうなるわけではないでしょうが、現代社会においては核家族化が進み、虐待が行われている家庭であったとしても、「家族の問題に口を出さないでもらいたい。」とか「プライバシーの侵害だ。」などと周囲の意見を受け入れないことがあったりします。

そのような家庭の子ども達を救うためには「地域の子どもは地域で育てる」環境作りがとても大切だと思います。

それぞれの地域で、多くの大人が連携・協力の意識をしっかり持って子育てに取り組む姿勢があれば、『虐待の輪廻』だけでなく、虐待全般に効果を発揮することができるのではないでしょうか。

児童虐待の防止等に関する法律第六条には「虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所もしくは児童相談所に通告しなければならない。」と明記されています。通告の義務（匿名で連絡することもできますし、名前を名乗ったとしても、その情報は相談先以外には知られないことになっています。）というと重苦しい雰囲気がありますが、子どもはできるだけ地域全体で見守るようにしたいものです。

＊このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎8880・6569

にこにこライフ 201

長生きのコツとは？

伊尾木 芳江（いおき よしえ） さん（東崎）

今年の11月22日に100歳になります。西野々に実家があり、百姓でよく手伝いをしておりました。学校は当時大篠にあった、小学校、中学校、高等学校、研究科で学びました。昭和10年に嫁ぎ、東崎の方へ来て、そこからずっと住んでいます。嫁いでからは、百姓のほか、保険代理店やお酒の販売など6～7つも仕事をやっていました。嫁ぎ先では姑がとても優しく、その優しさに支えられました。

趣味は旅行です。日本国内は何度も行きました。最後に国外へ行ったのはカナダで、88歳のときに行きました。そのときは88歳ということで、元気を分けてと握手攻めになったのを覚えています。海外旅行ではアメリカ、ニュージーランドなど10か国ほど行きました。今は、なかなか行きたくても行けません。

長生きのコツはまず健全な食生活です。栄養素を知り、組み合わせで効率よく栄養を取っています。好きな食べ物は、アボカド、キムチ、すし、すのもので、キムチをよく食べます。2つ目は運動です。ディサービスへ友人と出かけており、以前は歩こう仲間と石鎚山へ行ったこともあります。歩いて鍛えていたので、今でも歩くことができます。3つ目はメンタルケアです。ストレスが心を老化させるので、悩みに負けないよう心の持ちようが大事です。

今後は自分で努力をしつつ、家族に支えてもらいながら生きていこうと思っています。家族にはここまで支えられており、小さい時から仕事でも助けてもらいました。自分の腕となり、足となり、助けてくれて感謝しています。

百歳のご長寿おめでとうございます！

なんこく歴史散歩 第58回

幕末維新の南国 ―平井善之丞―

平井善之丞は、享和3（1803）年に上士の家に生まれ、幕末土佐藩の重職として活躍し、土佐勤王党同志人名録にも名前が残る人物です。13代藩主豊熙（とよひろ）のもとで大目付（おおめつけ）として、藩政の改革に尽力しました。豊熙は、藩主になった時から、広く意見を聞いて新進気鋭の人たちを登用しました。天保14（1843）年11月、これに反感を持つ人達は、この人たちを「おこぜ組」と呼び、彼らは自分勝手な主張を押し通（とお）そうとする者たちだと先代藩主豊資（とよすけ）に訴えました。そのため豊熙は苦境に立ち、やむを得ずおこぜ組を処罰しました。この時善之丞も辞職し、領地のある小野村（現岡豊町小蓮）で晴耕雨読の10年余りの閑居生活を送りました。人々はその気高い人格から「小野の聖人」と讃えたといいます。

土佐勤王党の党首武市瑞山は文久元（1861）年に島村衛吉らと小野の善之丞を訪ねたといいます。勤王党員は身分の低い下士が中心で、上士の内の賛同者も実際には加盟はしなかった中、善之丞は「今こそ、天下のために起つべき時である。善之丞老骨ながら援助を惜しまない」と約束し、勤王党からも期待されていました。

文久2（1862）年、吉田東洋が暗殺された後には、再び大目付や参政という要職について、勤王党に理解のある政治につとめました。しかし文久3年、山内容堂が帰国し、土佐勤王党への弾圧や吉田東洋暗殺の犯人捜しが激しくなります。そんな中、勤王党の肩をもつ善之丞の言動は、容堂の不興を買うこととなり辞職に至ります。土佐勤王党への弾圧はますます激しくなり、多くの志士達が投獄されましたが、善之丞はなすすべもなく、再び小野の地に閑居します。

慶応元（1865）年5月、63歳の生涯を閉じます。邸跡は小野神社への参道を少し上がった左側にあったといわれています。そして墓は高知市筆山の南麓塩屋崎にあります。

小野神社参道（岡豊町小蓮）

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎8880・6569